

令和 3 年 8 月 18 日現在

機関番号：34307

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02086

研究課題名（和文）住民と施設の協働のための実践モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a practical model for collaboration between residents and facilities

研究代表者

石井 祐理子（Ishii, Yuriko）

京都光華女子大学・健康科学部・教授

研究者番号：10367956

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：好事例のインタビュー及び研究会活動を通じて以下8つの特徴が見えてきた。以下8つの特徴は今後施設が地域住民と協働し、よりよい地域づくりを行うにあたっての直面する取り組み課題であるともいえる。資源が少ない場合でも様々な人や組織とつながれる。地域診断によって住民の課題を把握する。社会福祉協議会など他機関とつながると活動が広がる。トライアンドエラーで地域住民との関係は深まる。住民との対話が協働を促進させる。協働の取り組みを可視化する。担当者の配置と施設内での協働の合意。住民との協働にはきっかけ（トリガー）がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では「住民と施設の協働のための実践モデルの開発」をテーマに掲げ、「住民と施設の協働」に込められた「協働」の意味や意図を明らかにした。つまり福祉施設でボランティアが活動するという実践活動が「協働」という方向性に向かっていることを提示し、その「協働」スタイルのボランティア活動の先進性を描き出したことが学術的意義と考える。また本来の「協働」とは何かを問い直し、市民活動やNPOの活動、ボランティア活動が行政や公共の枠組みの中でできること、すべきことにチャレンジしていくことが必要であることを再認識することができたことは、社会的意義であると考えます。

研究成果の概要（英文）：The following 8 features have been seen through interviews of good examples and research group activities. The following eight characteristics can be said to be the challenges that facilities face in collaborating with local residents in order to create better local areas in the future. Connect with various people and organizations even when resources are low Understand residents' issues through community diagnostics Activities expand when connected to other organizations such as the Council of Social Welfare Tries and errors deepen relationships with local residents Dialogue with residents promotes collaboration Visualize collaborative initiatives Arrangement of personnel and agreement of cooperation within the facility There is a trigger in working with residents

研究分野：社会福祉

キーワード：住民 ボランティア 社会福祉施設 協働 実践モデル

1. 研究開始当初の背景

研究課題に取り組む背景には、それが求められる3つの状況があると考える。

第1は、「地域共生社会」を支え手側と受け手側に分かれるのではなく、人びとの支え合いによって作り出すことが社会の中で期待されているという状況がある。第2には、施設側には地域の社会資源として、さまざまな福祉課題に積極的にコミットし、社会貢献、地域貢献が求められている。第3には住民の側にも活動の「場」を求めている状況があるということである。

2. 研究の目的

本研究は、「ボランティア受け入れ側の福祉施設と、ボランティアをする側の地域住民という協力関係」から、「住民と施設の協働」という関係を構築することが強く要請される社会的な状況の中で、現行の「ボランティア受け入れ」をどのようにすれば「協働関係」へと発展させることができるのかを先行事例から探り実践モデルを模索することを目的とする。

3. 研究の方法

現行の「ボランティア受け入れ」の関係性を超え、福祉施設が地域福祉のプレーヤーとして、あるいはさまざまな活動の拠点として多様な人や組織を巻き込んで協働を実践している「好事例」（15か所）へのインタビュー調査によるケース・スタディを行い、あらたな協働を作ることに「成功」している要因を導出し、成功の要因に基づく仮説を提示する。

4. 研究成果

(1) 住民との協働の条件

施設によって協働のとらえ方や実践方法が当然ながら異なる。しかし協働を考えるにあたっておよそ共通するとらえ方が存在するのではないかと、という問題意識を持ちながら確認できたこととはまず「住民との協働」とは手段であり、目的ではないというとらえ方であった。インタビュー先では地域との協働の先駆的事例に学んできたが、その中でお話を伺った方は「この地域をよくしていきたい」「施設利用者の生活の質を向上させたい」「住民にも利用者にも喜んでもらいたい」という思いを一様に語ってくださった。そしてこれらの目的を達成するために地域との窓口となっている担当者や施設長が、自らが動き、楽しみや苦しみを共有し、チャレンジングに行動していた。その実践の一つひとつが実に興味深く、ドラマチックなものであった。これらの事例を通じて私たちは住民との協働の目的とは「地域で助け合いながら、利用者と住民、施設職員の生活の質を高め、ともにその地域で生活できることを喜びとする社会づくり」と認識することができた。実際、住民との協働の手段は無限にあるが、多くの時間と労力が必要となる。ただその労とは苦しみと楽しみが混在しているものでもあり、住民との苦労を共有した後だからこそ達成感や充実感が得られるものであるとも感じた。

施設の中には、地域貢献や住民との協働の取り組みは施設運営や施設サービスと比較すると優先順位が下がると考えている人もいるであろう。また地域貢献の担当者を配置することは施設運営や人的な問題から困難な場合もありえる。職員の合意も取りにくいと躊躇

するのも当然である。しかし、インタビューからは、ただ義務感にとらわれての取り組みではなく、試行錯誤で取り組んだプログラムが少しずつできあがっていくプロセスを楽しんでいるように見えた。これは原則やノウハウとして整理できるものではない。しいていうならばまずチャレンジすることが大切であり、楽しそうだからやってみようかといったものがその原動力なのかもしれない。しかしその取り組みがすべて順調に進んだわけではない。むしろ、失敗を住民と共有することが新たな取り組みへのアイデアにつながってくるものであるとも思える。いうなれば、施設における協働の取り組みのキモとは住民と施設の願いを共有し実現させていこうとする実践プロセスにあるともいえる。

それぞれの施設はその成り立ちも地域状況も異なる。このような中で施設が地域住民とどのように協働していったのか。その実践と実践を支える考えとはどのようなものなのか。以下に紹介する。

(2) インタビューを通じて発見できた8つの特徴

インタビュー及び研究会活動を通じて以下 8 つの特徴が見えてきた。それらは今後施設が地域住民と協働し、よりよい地域づくりを行うにあたっての直面する取り組み課題であるともいえる。以下、どのように住民と向き合い、信頼しあいながら地域づくりを進めていけば良いのか、以下に紹介する。

施設と住民との協働を促進させる 8 つの特徴

- (1) 資源が少ない場合でも様々な人や組織とつながれる
- (2) 地域診断によって住民の課題を把握する
- (3) 社会福祉協議会など他機関とつながると活動が広がる
- (4) トライアンドエラーで地域住民との関係は深まる
- (5) 住民との対話が協働を促進させる
- (6) 協働の取り組みを可視化する
- (7) 担当者の配置と施設内での協働の合意
- (8) 住民との協働にはきっかけ（トリガー）がある

(3) 住民との協働にあたって意識すべきこと

以上 8 つの特徴を示したが、インタビューをおこなったすべての施設が上記の 8 つすべての特徴を有しているわけではない。取り組みの順番も違えば、施設によっては協働への取り組みの前に、ある程度条件が整っている場合もある。また一つひとつ順を追って取り組む場合もあれば、並列的に複数のことに取り組む場合もある。いずれにしても、施設の実情に合わせてできるところから取り組んでみる大切である。1 つの取り組みが、次のすべきことを示してくれるだろう。

この施設と住民の協働とは、人と人の心を通わせる取り組みでもある。最後に地域住民との協働のために意識すべきことを示すことでまとめ総括としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 南多恵子	4. 巻 57号
2. 論文標題 社会福祉施設におけるボランティア継続の理由～高齢者福祉施設「西院」の継続ボランティアの要因分析から～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 173と182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 南多恵子	4. 巻 11巻1号
2. 論文標題 施設・事業所における地域づくりを見据えたボランティアとの連携の考え方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊地域包括ケア時代の通所&施設マネジメント	6. 最初と最後の頁 24と29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野智明	4. 巻 第3号
2. 論文標題 社会福祉施設における地域貢献・交流の課題～高齢関連施設におけるボランティア受け入れの視点から～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育者養成実践論集	6. 最初と最後の頁 21と25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井祐理子	4. 巻 第56号
2. 論文標題 「高齢者の地域福祉活動への参加の仕組みの検討」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野智明	4. 巻 第2号
2. 論文標題 「社会福祉施設における地域貢献・地域交流の課題 - 障害関連施設における実習・ボランティア受け入れの視点から-」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 横浜創英大学こども教育学部実習委員会編『保育者養成実践論集』	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妻鹿ふみ子	4. 巻 第132号
2. 論文標題 コミュニティアニズムは「地域共生社会」の実現に寄与できるか～M.サンデルの思想からの検討～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野智明	4. 巻 第4号
2. 論文標題 社会福祉施設におけるボランティアマネジメントの構造モデル 特別養護老人ホーム2事例のインタビュー分析から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横浜創英大学保育者養成実践論集	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井祐理子	4. 巻 第58巻
2. 論文標題 住民と施設の協働のためのボランティアマネジメントー好事例から学ぶー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 79-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南 多恵子	4. 巻 第58巻
2. 論文標題 社会福祉法人施設が取り組む地域福祉活動の文献検討ー地域住民との協働を伴う実践に着目してー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 91-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妻鹿ふみ子	4. 巻 通算No.49
2. 論文標題 社会福祉法人に求められる地域貢献～インタビュー調査からの考察～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域福祉研究公No.9	6. 最初と最後の頁 134-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 南多恵子
2. 発表標題 社会福祉施設が創り出すネットワーク構築の試み～京都市西院老人サービスセンター「おいでやす食堂」の分析から～
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩本裕子
2. 発表標題 「ボランティアを受け入れる」+「住民と協働する」福祉施設を目指して-京都の先駆的な実践の予備的調査の報告-
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 妻鹿ふみ子
2. 発表標題 「地域共生型」社会福祉法人のモデル事例としての「ゆうゆう」～ケーススタディからの考察～
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井祐理子
2. 発表標題 「高齢者の地域福祉活動への参加の仕組みの検討」
3. 学会等名 日本地域福祉学会第32回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南 多恵子
2. 発表標題 社会福祉施設と地域住民の協働関係構築に至る要因－住民と施設の協働のための実践モデル開発に向けて－
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野智明
2. 発表標題 社会福祉施設と住民との協働に向けたプロセスの検討－住民と施設の協働のための実践モデルの開発に向けて－
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 妻鹿ふみ子
2. 発表標題 ボランティアの受け入れから住民との協働への進化のベクトルとは～住民と施設の協働のための実践モデルの開発に向けて～
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井祐理子
2. 発表標題 施設と住民の協働のためのボランティアマネジメントーインタビュー調査から考えるー
3. 学会等名 日本地域福祉学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野智明
2. 発表標題 社会福祉施設におけるボランティアマネジメントの構造モデルー住民と施設の協働のための実践モデルの開発に向けてー
3. 学会等名 日本福祉教育・ボランティア学習学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南 多恵子
2. 発表標題 社会福祉施設の地域貢献としてのボランティア活動のありー先進事例の調査からの検討ー（ポスター発表）
3. 学会等名 日本社会福祉学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 南多恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本ボランティアコーディネーター協会	5. 総ページ数 59
3. 書名 想いをカタチに変えるコーディネーション力 2019年度グッドプラクティス認定事例集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 智明 (ONO TOMOAKI) (00515736)	横浜創英大学・こども教育学部・教授 (32727)	
研究分担者	南 多恵子 (MINAMI TAEKO) (10455040)	京都光華女子大学・健康科学部・准教授 (34307)	
研究分担者	妻鹿 ふみ子 (MEGA FUMIKO) (60351946)	東海大学・健康学部・教授 (32644)	
研究分担者	岩本 裕子 (IWAMOTO YUUKO) (00632358)	関西国際大学・教育学部・講師 (34526)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------